

令和4年11月10日

南の風 458

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ミニバスの指導者の方との話し合いから、話題になったことをもう一つ紹介します。

あるミニバスチームの指導者の話です。

「ミニバスでは、ドリブルを主体にしたオフェンスを展開することが多いと思います。よく中学以上のカテゴリーの指導者の方から、『ミニバスを経験した選手は、すぐドリブルをしてチャンスを生かさないことが多い』と指摘されます。私も無駄なドリブルは突かずに、パスで攻めることが大切だと思うのですが、特にトランジションからハーフコートのオフェンスに入り展開する時に、何かいいオフェンスシステムがあれば紹介してください」ということでした。

ハーフコートのオフェンスは、コーチの数だけあります。もちろん、どれが正解と言うものはありません。上記の話の「ミニバスはドリブルが多い」という指摘は、当たっている部分が多いです。ミニバスでボールを持つとすぐにドリブルを始めてしまったり、ドリブルからの攻めが多かったりする背景に、私は二つの理由があると思います。

一つは参加人数の減少による、年齢ギャップです。参加人数の減少で見ると、私の地区を例に挙げると特に女子にその傾向が見られます。極端に減ってしまうチームが出ています。各チームとも入部勧誘に力を入れ努力するのですが、中々思うようにいかないチームが増えていきます。

あるチームは、何年か経験のある6年生が2人、あとは経験の少ない4～3年生でした。こうなると当然ボールキープ力のある6年生がドリブルでボールを運び、さらに1 on 1で攻めるということになります。(もう1人の6年生は2Qに出場) 経験が少ない選手が多いチームにとって、ボールのキャッチ&パスを含むパスプレーは難しいのです。ドリブルで攻めざるを得ないのが現状です。

このような問題を抱えるチームが増えてきています。

二つ目はミニバスの場合、ほとんどのチームがボールに慣れるために、ハンドリングを重点的に行います。その延長でドリブル系の練習メニューが増えます。すると試合でもボールを持つと、無意識にドリブルをしてしまう選手が多くなります。ミニバスの特徴と言えます。

ただ、私はドリブルを使って攻めること自体が悪いとは思いません。初めてバスケットボールを始める時期(小学生以下の場合もありますが)である小学生の段階で、ボールに慣れ自由にドリブルが突けることは、今後の彼らの競技生活にとって基本となり、大きなスキルアップにつながるからです。

またドリブルで攻めることは、直接攻撃であり得点に結びつくことが期待できます。シュートを打てるスポットであれば当然シュート狙いですが、それ以外であればボールを持った瞬間、まずドリブルで突破して攻めることを考えます。

一方パスは、間接攻撃になりパス自体で得点することはできません。パスの目的は、よりシュートし易いスポットにいる選手にボールを回したり、ノーマークの味方にボールを渡したりして攻めることです。

前説が長くなりましたが、お尋ねの件です。ハーフオフェンスについては南の風で、いくつか紹介してきました。今回は、シンプルなエイトオフェンスを取り上げたいと思います。次号になります。